

## 第16回府中療育センター祭を開催します！

生活療育支援科 石田泰美

今年も8月に実行委員会が発足し、準備を進めている府中療育センター祭が近づいてきました。令和6年度のイベント日は10月25日（金）・26日（土）、展示期間は10月23日（水）～11月7日（木）です！

予告編ということで、少しでもイベントの内容をお知らせします。コーナーは例年どおり「制作・感覚刺激」「ゲーム」「芸能」「食べ物」の4つ。そして、今年も地域の障害者施設等の方々にお店を出していただける予定です。今年は新センターへ移転後初めて、1階屋外広場をメイン会場にしてお祭りの開催となります。

では早速会場をご紹介します。1階屋外広場には、「ゲームコーナー」「食べ物コーナー」「外部出店」「ブース企画」が軒を並べます。旧センターの時にあった「ネイル&タトゥ」も復活します。ゲームコーナーでは、「秋の味覚狩り!」「伝説の海賊!」（巨大な黒ひげ危機一発）が登場します。食べ物コーナーは利用者の方を主な対象としますが、「外部出店」では、手作りパンや総菜といった食べ物や、さまざまな製品の販売が行われる予定です（ただし、会場内での飲食は利用者の方のみとなりますので、ご注意ください）。ブース企画は、今年も「なるほど」とためになる内容が盛り込まれています。また、芸能コーナーも屋外広場で行います。今年の外部出演は初日が「ひとみ&Friends」さん、2日目が「QUENARPAN」さんです。また、ここ数年DVDによる演奏出演だった「府中けやきの森学園和太鼓部」さんが、ついに会場にいらしてくださいます。歌、楽器の演奏など、いろいろなパフォーマンスをお楽しみください。お世話になっているボランティアの方に感謝の気持ちを伝えるボランティア表彰も2日目に行います。

さて、屋内会場の紹介に移ります。まず1階、作業療法室では「感覚刺激」を実施します。いろいろと趣向を凝らしていますので、ぜひ体験してみてください。理学療法室は、屋外広場に出る通路となりますが、DVD発表の上映を行います。言語療法室にはブース企画が1つ入る予定ですので、どうぞお立ち寄りください。2階は、ラウンジこかげから多目的ホールに続く廊下の壁面が、各部署の作品展示や紹介展示で彩られます。

ほかにも、当日までに皆で作上げる全体制作（鋭意制作中。完成した作品は感覚刺激コーナーに飾られます）、「人生の節目を祝う会」（イベント日とセンター祭週間に分けて実施）、ゲームコーナーの病棟訪問が行われます。

ご家族や一部の外来の方にもご参加いただけます。感染対策のためまだオールフリーというわけにはいきませんが、少しずつ一緒にできることが広がっています。皆様と心を合わせて楽しいお祭りにしていきたいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます！

〒183-8553  
東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都立府中療育センター  
電話 042(323)5115  
FAX 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>



## ひだまり

都立府中療育センター新聞 第561号 発行日 令和6年9月30日

## こんにちは！薬剤科です

薬剤科長 八木原 栄

府中療育センター新聞の1面を薬剤科が飾るなんて、とても光栄です。新聞始まって以来、初めてじゃないですか？はりきって紹介させていただきます！！

病院薬剤師の根本は、外来・入院問わず、院内全体の医薬品安全管理を実現することです。特に調剤業務については、利用者の方々に「質の良い医薬品を継続してお届けすること」を大切にしています。

医薬品は、利用者の皆さんの健康的な生活を守るためのとても大切なツールです。センターでよく使用されるのは、まず「抗てんかん薬」。次に「筋肉や神経の薬」、「呼吸器関連の薬」そして「おなかの薬」です。「呼吸器関連の薬」は、ここ数年の新型コロナの流行や小児感染症などの影響で、一時は入手困難でハラハラしましたが、なんとか乗り越えています。他にも入手困難な医薬品が続出しましたが、メーカーや剤形を変えて対応しています。他剤への変更提案を行うこともありました。そのたびに医師や看護師の皆さんにご協力いただき、たいへん感謝しています。

使いやすい規格の採用にも取り組んでいます。たとえば生理食塩液のキット製品、レボカルニチン液の分包品の導入。生食のキット製品は、看護師から提案があり、しっかりと協力体制を組んでいただき、混乱なく導入することができました。

旧センターの薬剤科は、狭いスペースに窮屈な機器配置で、しかも倉庫は別室という不自由さでした。新しい施設に引っ越してからは、調剤スペースや注射薬倉庫、執務室をワンフロアで構えることができ、とても助かっています。また、電子カルテと調剤支援システムを連携し、前回処方との処方量の比較確認、検査値との突合、注射薬の使用前チェック、持参薬情報の共有を行うなど、より安全な医薬品管理業務に取り組んでいます。

小規模ながらも、心意気は日本一のビッグサイズ。親しみやすい薬剤科を目指しています！

正面玄関を入ってすぐのお薬窓口



調剤室





## 通所ではこんな活動をしています

通所 瀬野由佳



**太陽を浴びて輝くシャボン玉は、  
見ているだけで癒されます**

通所は1日30名までの方が利用できる生活介護施設です。朝は職員がバスに添乗してお迎えに向かい、10時を目途に利用者が通所されます。お仕事のあるご家族は、朝の準備にヘルパーさんを利用されている方も多です。

ワンフロアで2つのクラスに分かれて支援しています。全体で行う活動、クラス活動、グループ活動、個別活動、そして個別心理、PT訓練など様々な活動を提供しています。天候の良い日には中庭に出てシャボン玉遊びをしたり、活動で利用者様と一緒に制作したサクランボやカエルを使ってゲームをしたり、夏にはプール活動や水遊びも行っています。年齢の若い方も多いのでゲームなど勝負は盛り上がります。

また、季節に合わせた制作など、カードや折り紙で作ったカーネーション、ユリの花、風車、コマ、くるくるシャボン玉などの作品をご家庭に持ち帰ってご家族にも楽しんでいただいています。利用者の誕生日に合わせて毎年ささやかなプレゼントを制作してお渡ししています。今年は透明で大きな丸いカプセルに利用者の写真を入れてラッピングしました。利用時間5時間の中で様々な支援を行っていますが、ご家族の負担を少しでも軽減できるよう、医療的ケアも行いつつ、利用者が楽しめる活動を提供していきたいと思います。



**折り紙カエル(手作り)オリンピック、  
熱く真剣な戦いとなりました**

## 災害時を想定した炊き出し訓練

事務室 庶務担当



非常用として備蓄しているアルファ化米のうち、消費期限が近くなったものを活用して「炊き出し訓練」を行いました。災害時を想定し、防災倉庫から運び出したアルファ化米を炊き出し会場に設置します。その場で200食の味付きご飯を調理して容器に1食ずつ盛り付け、受け取りにきた各部署の職員へ提供しました。交代制勤務者が多いため計2日間実施し、多くの職員にアルファ化米ご飯の試食をしてもらうことができました。

試食した職員からは、「思ったよりも美味しい」「ややボソボソしていたが災害時には十分食べられる」「味の濃さや具材に偏りがあった」等の感想が寄せられました。

大災害が起きた時には、混乱の中で災害活動に従事する職員へ確実に食事を提供しなくてはなりません。今回実際に非常食の調理と提供を経験することで、場所や人員、衛生面での制約がある災害時の非常食配布について考える機会となりました。

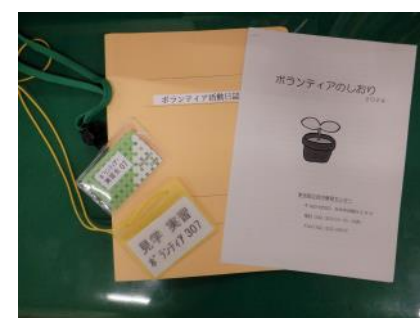
## ボランティアとともに～活動紹介～

生活療育支援科 田口美穂

当センターでは、様々な場面でボランティアの皆さんにご活躍いただいています。

まず、利用者と一緒にゲームや音楽等のグループ活動を楽しんだり、散歩や本読み等、利用者の好みに合わせて個別に向き合ったりしてくださっている方がいます。また、生活を快適に保つため、シーツ交換や車いすの掃除をお願いしている方もいます。

特技実演のボランティアには、これまでに弦楽四重奏やリコーダー演奏、フラダンスや盆踊り、大道芸といった様々なパフォーマンスの披露により、行事を盛り上げていただきました。また、行事運営の手伝いもお願いしていて、この夏の病棟の行事には、体験ボランティアとして5名の高校生が参加してくれました。



センターにとってボランティアは、地域とのつながりであり、利用者の生活をより豊かにするために力を貸してくださる存在です。利用者にとっては、ご家族とはまた違った、“自分のために来てくれる”スペシャルな存在となっているように思います。そしてボランティアの皆さんにとっても、やりがいや楽しみ、社会貢献といった生活の充実につながるものとしていただけるよう願っています。

## 病棟での日中活動(医療病棟編)

医療病棟 福祉職



病棟では福祉職が主体となり、行事や日中活動を行っています。いつもは病棟で行っている行事やバスハイクの様子をお伝えしていますが、今回は日中活動の様子をお伝えしたいと思います。医療病棟では病棟交流という意味も含め合同でグループ活動を行うことがあります。病棟デイルームや、多目的ホール・2階の活動室に集まり主にゲームを行っています。ゲームは多目的ホール全体を使って双六を

したり、病棟対抗でウォークラリーを行い競い合ったりと、大勢で行うことで一層楽しむことができます。

夏の時期はプールにも入っています。昨年までは新型コロナウイルス感染防止対策のため1病棟ずつしか入れませんでしたが、今年は2病棟が一緒にプール活動を行うことが実現し、いつもと違う場所で利用者同士が交流することができました。

